



津田 哲史

＜ファシリテーター＞
近畿経済産業局



北林 功氏

COS KYOTO株式会社
代表取締役
一般社団法人Design
Week Kyoto
実行委員会 代表理事



植山 展行氏

植山織物株式会社
代表取締役



藤原 愛氏

Love's Gallery
代表



太田 亨氏

株式会社太田工務店
代表取締役



近藤 清人氏

株式会社SASI
代表取締役

Vol.6



関西オープンファクトリーフォーラム

“共創”する地域産業が織りなす“サードプレイス”の可能性
を開催しました！

今回は「播州織」で有名な西脇市・多可町を舞台に様々な分野で活躍するキープレイヤーにお集まりいただき、他地域で先駆的に躍動するDESIGN WEEK KYOTO / TANGOの取組や「デザイン経営」の視点から学びを深め、登壇者同士で互いの共創の可能性について意見を交わしました。以下、概要を報告します。

日時 : 令和3年10月7日(木) 13:30～16:30
会場 : ハイブリッド開催(会場：西脇市市民交流施設オリナスホール)
主催 : 経済産業省近畿経済産業局（事務局：株式会社ダン計画研究所）

まず、近畿経済産業局 津田係長より、オープンファクトリーの定義・意義を紹介。魅せる現場で躍動する「現場の方々」が主役であり、オープンファクトリーを通して「人材」「会社」そして「地域」が成長する仕組みを説明し、関西各地の地域一体型オープンファクトリーの取組から生まれる様々なイノベーションの事例を紹介。さらに関西各地において新たな地域一体型オープンファクトリーの兆しが生まれていることを紹介しました。



続いてDESIGN WEEK KYOTO/TANGOを代表して、北林氏より、～ホンモノの“交流”とは～をテーマに基調講演。「多様性の鍵は交流」「イノベーションを生み出すのはヨソモノ云々言われるが、『ホンモノ』であることも重要」「地域の100年後を想像して今を考える」「改めて地域の歴史を交流圏で捉え直すことで気付く発見もある」など、先駆的に取り組んできたからこそその経験や知識を惜しみなく共有いただきました。

【パネルディスカッション】地域と“共”に“創る”産業の可能性>

社会構造が複雑になった昨今においては「SDGs(持続可能な開発目標)」や「デザイン経営」という言葉で、企業単体ではなく、地域や社会全体で“共創”する産業構造が重要であり、改めて求められていることから、まず登壇者それぞれが行っている事業について自己紹介を兼ねて発表いただきました。

まず、植山織物株式会社の植山氏より、先代が急逝されてから会社を守るため、そして地域に根づく播州織の発展のために取り組んできたことをステージに分けてご紹介いただきました。



次にLove's Galleryの藤原氏より、「フェアトレード」を大切に続けてきたインドネシア・カポポサン島の産業との関わりについてご紹介。自身のみならず島の自立的な成長の過程をお話いただきました。



3番目には太田工務店株式会社の太田氏より、多可町ヒノキのブランド化に向けた取組と、起業した際に工務店事業だけでなく製材事業まで手を伸ばすことで、地域産業の活性化につながっている取組についてご紹介いただきました。



最後に多可播州織プロジェクトにも参画されている株式会社SASIの近藤氏より、「デザイン経営」のご説明と、これまで中小企業の強みを引き出し・引き上げてきた取組についてご紹介いただきました。



それぞれに素晴らしい活動を行っているにもかかわらず、「意外とお互いの事を知らなかった」という現状は、基調講演でご紹介いただいたDESIGN WEEK KYOTOの開始時の様子と重なることもあり、北林氏からは「可能性の塊ですね。」の一言。さらに、デザイン経営で多くの企業ブランディングや共創の場を手がけてきた近藤氏は、基調講演を聞いて感じたこととして、「多様性の鍵が交流」であれば、反意は「画一性の鍵は分断」となると言及。敢えて「業種を越えて、オープンな関係で交流することが重要」と登壇者を含め認識を共有することが出来ました。



イベント終了後においても、登壇者同士、そして現場で聴講していた参加者の多くが名刺交換を行いながら活発に交流。この場を機に、これからの新たな異業種交流・地域活性化が期待されます。